

4 画像診断機器を用いた侵襲的な行為を伴う検査

- ・ 実物大臓器立体モデルによる手術計画
- ・ 三次元形状解析による顔面の形態的診断
- ・ 画像支援ナビゲーション手術
- ・ CT透視ガイド下生検
- ・ ³¹ 燐-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断
- ・ 三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療

当該技術の実施医療機関の要件 (基本4)

高度先進医療名: 実物大脳器立体モデルによる手術計画 (68)	
適応症: 頭蓋頸部領域の骨変形、欠損、骨折	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	耳鼻咽喉科、形成外科、口腔外科 等
資格	要 (関連学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例5例以上)
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本4)

高度先進医療名: 三次元形状解析による顔面の形態的診断 (123)	
適応症: 頭蓋・顔面・頸部の変形性疾患	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	形成外科、口腔外科 等
資格	要 (形成外科、口腔外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	顎顔面矯正科、歯科矯正専門医等との協力が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例5例以上)
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本4)

高度先進医療名: 画像支援ナビゲーション手術 (131)	
適応症: 頭頸部および脊髄腫瘍、血管病変	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科、脳神経外科、形成外科
資格	要 (整形外科学会、脳神経外科学会専門医 等)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例5例以上)
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本4)

高度先進医療名: CT透視ガイド下生検 (141)	
適応症: 胸部、腹部、腰部、軟部組織: 骨領域の腫瘍病変及びリンパ腫腫大	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科、整形外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	3年以上
当該技術の経験症例数	3例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師2名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例3例以上)
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本4）

高度先進医療名：S1 糖一磁気共鳴造影（MR）による糖尿病性足病変の非侵襲的診断（160）	
適応症：糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、放射線科 等
資格	要（放射線学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数（注2）	常勤医師2名以上
他診療科の医師数（注2）	要 麻酔科1名以上、放射線科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置（薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、放射線科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制（患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例5例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本4）

高度先進医療名：三次元再構築画像による股関節疾患の診断と治療（196）	
適応症：股関節疾患	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科
資格	要（整形外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数（注2）	常勤医師2名以上
他診療科の医師数（注2）	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置（薬剤師、臨床工学技士等）	不要
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制（患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例5例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

5 センチネルリンパ節の同定と検索

- ・ 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断
- ・ 悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索
- ・ 早期胃癌に対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索

当該技術の実施医療機関の要件（基本5）

高度先進医療名：悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断（144）	
適応症：悪性黒色腫	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	皮膚科
資格	要（関連学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数（注2）	常勤医師2名以上
他診療科の医師数（注2）	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上、放射線科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（薬剤師1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門、放射線科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（画像検査機器等）
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例5例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本5）

高度先進医療名：悪性黒色腫、乳癌におけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索（150）	
適応症：悪性黒色腫、乳癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、皮膚科
資格	要（外科、皮膚科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数（注2）	常勤医師2名以上
他診療科の医師数（注2）	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上、放射線科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（薬剤師1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門、放射線科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（画像検査機器等）
倫理委員会による審査体制	不要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例5例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本5）

高度先進医療名：早期胃癌に対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索（218）	
適応症：早期胃癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科
資格	要（消化器外科学会専門医）
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数（注2）	常勤医師2名以上
他診療科の医師数（注2）	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上、放射線科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 （薬剤師、臨床工学技士等）	要（薬剤師1名以上）
病床数	不要
診療科	要（実施診療科、麻酔科、病理部門、放射線科）
当直体制	要（実施診療科）
緊急手術の実施体制	要
院内検査（24時間実施体制）	要
他の医療機関との連携体制 （患者容態急変時等）	不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要（画像検査機器等）
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要（有効性が認められた症例5例以上）
その他	
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

注1）当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2）医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

6 内視鏡下で行う外科手術

- ・ 肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査
- ・ 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術
- ・ 腹腔鏡下肝切除術
- ・ 腹腔鏡下前立腺摘除術
- ・ 乳房温存療法における鏡視下腋窩郭精術
- ・ 鏡視下肩峰下腔徐圧術
- ・ 硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療
- ・ 膵腫瘍に対する腹腔鏡補助下膵切除術（膵体尾部切除または核出術）
- ・ 膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術
- ・ 内視鏡下甲状腺癌手術
- ・ 泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術
- ・ 腹腔鏡下広汎子宮全摘出術

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 肺腫瘍のCTガイド下気管支鏡検査 (110)	
適応症: 肺腫瘍	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	内科、外科、呼吸器科
資格	要 (呼吸器学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	5例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上、放射線科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門、放射線科)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例5例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	不要
その他	

- 注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。
- 注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術 (120)	
適応症: 頸部良性腫瘍	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、耳鼻咽喉科
資格	要 (外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

- 注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。
- 注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 腹腔鏡下肝切除術 (130)	
適応症: 肝細胞癌 (肝部分切除並びに肝外側区域切除の適応となる症例)	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科
資格	要 (消化器外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

- 注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。
- 注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 腹腔鏡下前立腺摘除術 (138)	
適応症: 前立腺癌 (限局性のものに限る。)	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	泌尿器科
資格	要 (泌尿器科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

- 注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。
- 注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術 (143)	
適応症: 乳癌 (主に乳房温存手術が可能な Stage I-II の乳癌)	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科
資格	要 (胸部外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 鏡視下肩峰下腔除圧術 (152)	
適応症: 透折パッド肩関節症と腱板断裂、五十肩、関節リウマチなどによる肩インパクト症候群	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科
資格	要 (整形外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療 (169)	
適応症: 腰椎椎間板ヘルニア、腰部神経根性痛、又は腰椎手術後の腰下肢痛であって保存療法に抵抗性であるもの	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	整形外科、麻酔科
資格	要 (麻酔科学会、整形外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名: 膵臓癌に対する腹腔鏡補助下切除術 (膵体尾部切除または膵出術) (174)	
適応症: インスリンノーマ、膵動脈瘤、粘性性嚢胞腫瘍、膵管内腫瘍、その他の膵良性病腫瘍	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科 等
資格	要 (消化器外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上 (助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数 (注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要 (実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要 (実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査 (24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名:膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(193)	
適応症:膀胱尿管逆流症(国際分類GradeVの高度逆流症を除く)	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	泌尿器科
資格	要(泌尿器科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上(助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数(注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数(注2)	要 麻酔科1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要(実施診療科、麻酔科)
当直体制	要(実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査(24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名:内視鏡下甲状腺低手術(198)	
適応症:手術予後の良い甲状腺乳頭癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、耳鼻咽喉科
資格	要(内分注外科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上(助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数(注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数(注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要(実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要(実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査(24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名:泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節摘除術(205)	
適応症:泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例、または画像上リンパ節転移が疑われる症例	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	泌尿器科
資格	要(泌尿器科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上(助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数(注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数(注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要(実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要(実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査(24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本6)

高度先進医療名:腹腔鏡下広汎子宮全摘除術(231)	
適応症:初期子宮頸癌	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	産婦人科
資格	要(産科婦人科学会専門医)
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	5年以上
当該技術の経験症例数	10例以上(助手・術者としてそれぞれ10例)
その他	内視鏡外科学会の認定が望ましい。
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数(注2)	常勤医師3名以上
他診療科の医師数(注2)	要 麻酔科1名以上、病理医1名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	不要
病床数	不要
診療科	要(実施診療科、麻酔科、病理部門)
当直体制	要(実施診療科)
緊急手術の実施体制	要
院内検査(24時間実施体制)	要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	不要 連携の具体的内容:
医療機器の保守管理体制	要
倫理委員会による審査体制	要
医療安全管理委員会の設置	要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要(有効性が認められた症例10例以上)
その他	臨床工学技士1名以上の配置が望ましい。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要(10例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格(学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

7 移植手術

- 脳死肝臓移植手術
- 心臓移植手術
- 生体部分肺移植術
- 膵臓移植手術
- 脳死体からの肺移植手術

当該技術の実施医療機関の要件 (基本7)

高度先進医療名：脳死肝臓移植手術 (109)	
適応症：劇症肝炎、先天性肝・胆道疾患、先天性代謝異常症、バグ'371症候群、原発性胆汁性肝硬変、二次性胆汁性肝硬変、原発性硬化性胆管炎、C型ウイルス性肝硬変（細小肝硬変を含む）、B型ウイルス性肝硬変（細小肝硬変を含む）、アルコール性肝硬変	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、消化器科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 (注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実験症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本7)

高度先進医療名：心臓移植手術 (137)	
適応症：拡張型心筋症および拡張相の肥大型心筋症	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、心臓血管外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 (注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実験症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により、選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本7)

高度先進医療名：生体部分肺移植手術 (139)	
適応症：原発性肺高血圧症、特発性両側性肺炎、気管支拡張症、肺リンパ管腫瘍、閉塞性細気管支炎、両側性肺炎、菌陰性肺嚢腫、肺膿瘍	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 (注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実験症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。(脳死肺移植の実験施設)
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件 (基本7)

高度先進医療名：膵臓移植手術 (188)	
適応症：インスリンに依存するIDDM	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 (注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 (注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実験症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格 (学会専門医等)、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。

当該技術の実施医療機関の要件（基本7）

高度先進医療名：脳死体からの肺移植手術（194）	
適応症：原発性肺高血圧症等、肺・心肺移植関連学会協会で承認する進行性肺疾患	
I. 実施責任医師の要件	
診療科	外科、呼吸器外科 等
資格	不要
当該診療科の経験年数	不要
当該技術の経験年数	年以上
当該技術の経験症例数	例以上
その他	
II. 医療機関の要件	
実施診療科の医師数 注2)	常勤医師名以上
他診療科の医師数 注2)	不要 常勤医師名以上
看護配置	不要
その他医療従事者の配置 (薬剤師、臨床工学技士等)	要 (〇〇師〇名以上)・不要
病床数	不要
診療科	要 (〇〇科)
当直体制	要 (実施診療科・内科・外科)・不要
緊急手術の実施体制	要・不要
院内検査 (24時間実施体制)	要・不要
他の医療機関との連携体制 (患者容態急変時等)	要・不要 連携の具体的内容：
医療機器の保守管理体制	要・不要
倫理委員会による審査体制	要・不要
医療安全管理委員会の設置	要・不要
医療機関としての当該技術の実施症例数	要 (症例以上)・不要
その他	移植関係学会合同委員会により選定された施設であること。
III. その他の要件	
頻回の実績報告等	要 (5例まで又は6か月間は月毎の報告)
その他	

注1) 当該医療技術を適切に実施できるに当たり、必要と考えられる医療機関の要件を記載して下さい。

注2) 医師の資格（学会専門医等）、経験年数、当該技術の経験年数及び当該技術の経験症例数の観点を含む。例えば、「経験年数〇年以上の医師が△名以上」。なお、医師には歯科医師も含まれる。